

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2024年8月16日（第1.0版）

承認番号	23187
課題名	包括的高度慢性下肢虚血患者の下肢難治性潰瘍に対するディスタールバイパス術後の遊離広背筋皮弁が血行動態に与える影響の評価
研究期間	実施許可日 2024年8月26日～2029年3月31日
研究の対象	当院血管外科でバイパス手術を行った後に、2021年8月1日～2029年3月31日に当科で下肢難治性潰瘍に対して遊離広背筋皮弁の手術を行い、術前・術後に定期的な超音波検査をうけられた患者さん
利用する試料・情報の種類	診療情報（詳細：年齢、性別、既往歴、併存症、治療内容、下肢の超音波検査結果等）
利用予定日	実施許可日から2週間後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	包括的高度慢性下肢虚血の患者さんは、足の血流が悪く、足の傷がなかなか治りません。この病気の治療は、血流を良くする手術と、遊離皮弁手術という傷から離れた場所から組織を切り離して採取し、足の傷を覆う手術を行うことです。これにより、長期予後が良くなると言われています。しかし、現状では包括的高度慢性下肢虚血の患者さんに対する遊離皮弁手術の明確な適応の基準はありません。 この研究では、包括的高度慢性下肢虚血の患者さんの足の傷に対して、バイパス手術を行った後に、背中から組織を切り離して傷を覆う、遊離広背筋皮弁という手術を行った患者さんを対象としています。この治療により、血流にどのような影響を及ぼすかを超音波検査の結果を診療録より収集して評価します。超音波検査は、バイパス手術を行なった患者さんに対して通常の診療で行うものであり、患者さんに不利益を生じることはありません。 この研究によって、今後、包括的高度慢性下肢虚血の患者さんの治療を決める基準になると考えます。
研究の方法	対象となる方の検査結果や診療録から得られた情報を下に、統計学的分析を行います。
その他	特記すべき事項はありません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、

	下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 研究責任者：林 利彦 所属：旭川医科大学 形成・再建外科学講座 教授 所在地：〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号 電話番号：0166-68-2801 直通)
--	--